

～風しん抗体検査の結果、定期予防接種の対象となった方へ～

※ワクチンは、麻しん風しん混合（MR）ワクチンです。

風しんの予防接種を受けるにあたっての説明書（大垣市）

予防接種を受けられる方は、接種の前にこの説明書をよくお読みください。

不明な点は、予防接種を受ける前に医師に質問し、十分理解した上で接種を受けてください。

1 風しんについて

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、耳介後部や頸部リンパ節腫脹などが主症状です。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎が報告されています。大人が罹患すると、その症状は乳幼児に比べて一般に重く、高熱が持続したり、関節痛の頻度が高いといわれています。

妊婦が妊娠初期に風しんにかかると先天性の心臓病、白内障、聴覚障害、発育発達遅延など（先天性風しん症候群）の障がいを持ったお子さんが生まれる可能性が非常に高くなります。

2 予防接種の効果

予防接種をすることによって95%以上の方が免疫を獲得します。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。

3 副反応について

麻しん・風しんワクチンの副反応の主なものは、発熱と発疹です。他の副反応としては、接種部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛などが見られます。

4 予防接種を受けることができない方

- (1) 明らかに発熱（通常37.5℃以上）している方
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3) その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アレルギーを起こしたことがあることが明らかな方
- (4) その他、医師が不適當な状態と判断された方
- (5) 麻しん・風しんワクチンの接種前後各2週間未満の間に、新型コロナウイルスに対するワクチンを接種した、あるいは接種予定のある方

5 予防接種後の注意

- (1) 予防接種を受けた後30分間程度は、医療機関で様子を見るか、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2) 生ワクチンのため、接種後4週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位は清潔に保ちましょう。当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4) 当日は、激しい運動は避けましょう。
- (5) 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。